

厳冬期の八甲田

Part 1 1993 2 11-14

メンバー 蔵田道子 白沢光代(訳)
ら・ねーじゅ No.209

4日間モッコ沢のみだったが、毎日雪が降り、毎日深雪を滑れて楽しかった。

part 2 1994.2.10-13

メンバー 蔵田道子 高野真砂子 白沢
光代

2月10日(晴れ)

足慣らしのための

行く。雪はシュカブラ状で堅い。ゲレンデから離れても、堅くて曲がれない。モッコ沢に入ったら樹林なので少し良かつたが、強風で捏ねられた重い雪だった。

2月11日(雪) 酸ヶ湯・八甲田クラブ
合同ツア-

酸ヶ湯のガイド氏は今年は柿崎さん一人で、八甲田クラブとの合同ツアーになる。1本目はモッコ沢で、ロープウェイ駅の下から滑り始め、沢の合流点を目指すというコース取りが、概ね分かった気がする。上部が大斜面、下部はぶなの林、合流点で橋を渡りトラバースしてゲレンデのフォレストコースに出る。合流点までは、3コースぐらい取れる。下部にはルートを示す番号札もある。春になると入り口にポールを立て、一般に開放するのだそうだ。雪質は昨日よりかなり良い。

2本目は ダイレクトコースのさら左の感じだが、視界が悪くコースはよく分からぬ。深雪を滑り最後はびたりとリフトの上に出た。

3本目は寒水沢でさらにずっと左だった。快適な大斜面を降り、夏は湿原になるという広い雪原で休憩。そこからかなり深いラッセルになる。楽在れば苦在りという感じ。再び急斜面を降りると、車道にでた。スキーを外して少し歩くとロープウェイ駅にでた。

2月12日（雪後晴れ）酸ヶ湯・城ヶ倉
ツア-

約70名の客にガイドはパトロールまで入れると、6名で八甲田温泉のコースである。熊谷樺さんとお友達も酸ヶ湯からのメンバーだ。ロープウェイの山頂駅から、見事な樹氷の雪原を柿崎さんがラッセルして進むが視界は悪い。緩やかな上下がある。1度ラストのガイドからストップがかかり軌道修正があった。

メンバーは柿崎氏のペースについていく人といけない人に、次第に別れて行く。谷の上で全員揃うのを待つ。急斜面の深雪の滑降で、自然に2グループに別れる。先頭グループは次はトラバースにコースをとる。あまり転ばない私は先頭に近い位置にいた。

尾根に出て、深雪の急斜面の横断に入る前に「絶対トレースより上には行かないように」との注意が、ガイドからあった。私の前は熊谷樋さんだった。突然彼女は止まった。「この斜面は雪崩の危険がある。間隔を空けて進むべきだ。」というのだ。列が動かなくなつたので、様子を見ようと上に登りだした人に「行くな。危険だ。」の声がかかる。

私の位置から先頭のガイドが見える。
ガイドは「ここを滑りましょう。」とい

い、ストックを下に向け方向を示しから華麗に降りる。続いて深雪マニアが負けずに行く。数人が無事に降りるのを確認してから熊谷樋さんも滑りだした。中々安定した滑りだ。ここは酸ヶ湯くれた地図では雪崩危険のコースなのだ。富良野で雪崩に埋まった経験のあるはずの樋さんにすれば当然の行動かなーと思う。そして私も真下に滑る。蔵田さんも止まった場所から華麗に降りる。高野さんも滑る。

本日のハイライトの大斜面の下で見上げて待つ。大斜面が終る辺りで転んだ一人が、スキーが見つからないと言い出した。大勢がの人がそこ迄戻って探す。かなりたって、起き上がった地点からだいぶ離れた所で見つかった。

そして斜面を半分ほど降りた辺りの右手に新たなグループが現れたと思ったら二手に別れた我々の仲間であった。下に全員が揃つたら出発だ。ここからは緩やかな樹林帯の滑降だ。人数確認は一度も無かったけど、置いてゆかれたら帰れないと思ふ客も必死だった。

ピタリと八甲田温泉への分岐点に止まっているバスの所に出た。2台のバスに分乗した。ラッセルに疲れたという酸ヶ湯のガイドの柿崎さんは、椅子にどかりと座り休憩。後から歩いただけの客は「今度はどこですか？楽しかった。」と気楽な言葉を吐く。ロープウェイにもどりしばらく休憩してモッコ沢を滑った。

13日（雪）

半日ではツアーに入れないで、モッコ沢をフリーで滑る。2本目風が強く視

界が悪すぎるので、先行者についていくと、ダイレクトコースに出てしまった。ゲレンデにも強風が吹き荒れ、ゴーグルの私以外はほとんど見えなくなってしまう。パトロールが滑ってきて、一人一人に「大丈夫か？」と声をかけて行く。ゴーグルなしの高野さんの顔には雪がこびり付いていた。次の一本しか見えないポールを頼りに必死で降りると、風速20mで、ゴンドラは止まっていた。もう少し早くゴンドラを止めてほしかったなあ。

Part 3 1995 1/14~16

小林迪子 白沢光代

14日（雪）

午後からゲレンデに行く。フォレストコースは閉鎖でダイレクトコースのみ。滑っている人が少ないので幅が狭くかなり難しい。フォレストコースは下部緩斜面なので、雪が深すぎてラッセルになるので、パトロールさえ行けないと言うのが閉鎖の理由だったらしい。

15日（雪）

今年から酸ヶ湯の嚴冬期のツアーは、「クロカンの予約が無いときのみ。」とのいうで仕方なく八甲田山荘のツアーに申し込むが、もう出掛けてしまったとの事で、午後から上の食堂で待ち合わせることになる。今日も午前中はダイレクトコースのみ。滑る人が少ないので、コースは狭く難しい。

午後からのコースはダイレクトコースの少し左で、深雪を一滑りし、樹林帯の深いラッセルで悪戦苦闘するとダイレクトコースに合流してしまった。1月の雪

は、まだ根雪がしっかりと形成されていないようで、ストックはどこまで埋まるしラッセルは深く苦しい。

16日（小雪）

城ヶ倉との合同ツアーになる。閉鎖されているフォレストコースに入る。少しだからと坪足で登ろうとしたガイドは肩までもぐった。スキーを付けても腰までのラッセルになった所で、コースを変更するのが正解だったと後で思った。

ガイド4名パトール1名でラッセル。急斜面に出てもトップは滑らない。2番目からはボブスレーのコースを行く感じで、後の人ほどスピードが出る。転ぶと雪に埋もれ一人では起きられない事が多い。私の2度目の大転倒では、頭の上に雪がかぶさり、やっとの思いで上半身を起こしたが、ストックは全部埋まって堅い雪に届かないで力が入らず、助けにきてくれた人にストックを引いてもらいやっと立てた。

このコースには急斜面は2箇所のみで後は長い長い雪中行軍になった。1時間後に一人、さらに2時間後又一人、追い掛けってきたパトロールも一緒にラッセルしてくれている。ゲレンデスキーでのラッセルは時間がかかり、待っていると寒くなる。高校生らしき女性が寒さを訴えだし、女性ガイドが体をさする。

下の急斜面は広いはずだったが、この時は細い灌木が沢山出ていて、とても大斜面とは言えず、2月との違いを際立たせていた。

足立区から来ているという男性がしきりに「昨日のモッコ沢は良かった。」と

言う。そして「モッコ沢を滑るために来たんだ。」とさえ言う。「今日はモッコ沢は雪崩が危険なんですか？」との彼の間にガイドは「雪庇が出来ていれば危ないけど、ゴンドラの窓が曇っていて、よく見えなかったから、何とも言えない」と答えていた。彼はCMHのヘリスキーモナシーも経験しているという。

1時やっとゴンドラの駅に出られた。城ヶ倉のガイドはメンバーを集めると、「我々のコース設定のミスでスキーに成らずすみません」と話している。我が八甲田スキークラブのガイドは「今回はスキーにならなかったので、ガイド料金は返します。」と言ってくれた。3000円を返してもらった。

この後、リフトでゲレンデを滑ったが圧雪されたいない急斜面には、まだまだ深雪が残っていて、なかなかおもしろかった。リフト券を切っているおじさんが1枚サービスしてくれた。小林さんはさらにダイレクトコースに向かったが、私は山荘でスパゲッティを食べた。

今年から酸ヶ湯・青森空港間のバスが減っていて、飛行機は5便あるのにバスは3本だけだった。飛行機の最終便は20:25なのにバスの最終は15:00だった。しかたなく空港で時間をつぶす。昨年はバスに客が一人もいない事もあったというから、しかたないのかな。

昨年の夢よもう一度とばかり出掛けた八甲田だったけど、1月は駄目というのが結論である。2月が深雪の適期、天候に恵まれれば八甲田温泉のコースも楽しめる。モッコ沢でも十分楽しい。

